
原因不明の奇病

会津遊一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

原因不明の奇病

【Nコード】

N9512H

【作者名】

会津遊一

【あらすじ】

私は熱で、うなされ続けていた。このままでは死ぬかもしれないと思ったので、救急車で病院に運んでもらう。しかし、医者達がどう治療しようと、熱が下がらなくて……。

熱い。

私は、もう熱くて死にそうだった。

何十時間も汗をかき続けている。

健康には人一倍、気をつけていたのに。

買い置きしていたスポーツドリンクとマルチサプリが無かったら、本当に死んでいたかもしれない。

私は、これ以上我慢は出来ないと思い、救急車を呼んだ。

だが。

入院した後も、熱は下がらなかった。

7日程たったある日。

突然、熱が平熱に戻ったのだ。

こんな不思議な事があるものなのかと、医者達も首を傾げていた。

だが、誰よりも驚いたのは私だった。

退院しようと思っていたら、腹部に大きな口が出来ていたのだ。

しかも、その口は、

「おい馬鹿面、何か食える物を持ってこい」

と、喋った。

あまりの出来事に、私はしばらく惚^{ほう}けていた。

すると、もっと大声で罵^は声を浴びせられたのである。

大慌てで担当医に相談した。

「これは、ウチでは直せませんね。紹介状を書きますので、そちらに行ってください」

私が紹介されたのは、古いお寺だった。

現れた住職に腹の口を見てもらうと、渋い顔で聞かれた。

「貴方、普段は何を食べています？」

私は、無農薬の野菜と無菌の肉だと、答えた。

「なるほど。では、今から指定された物を一週間ほど召し上がって下さい。それで直りますから」

そんな事だけで、この腹にある口は直るのだろうか。

口は、今も飯を食べさせると、喚わめいている。

だが、半信半疑ではあったが、他に頼る当てもなかったので、私は指示に従った。

すると、みるみる口が弱っていき、すっかり黙り込んだのだ。

あの住職が言っていた事は本当だった。

私はお寺に向かい、腹にある口は何なのか尋ねた。

「名を、おつせいちゅう応声虫と言います。寄生虫の一種で、健康そうな宿主を見つけると取り憑くんですよ。それで飯を食わせないと何時までも叫び続けるという、厄介な虫ですね。これは江戸時代の閑田かんてんこうひつ随筆にも記されています」

聞いた事がなかった。

私は、うへえ、という相づちとも返事とも取れない言葉を返した。

「まあ、最近じゃあ、見掛けるのも珍しい病ですからね」

私は、そうなんですか、と尋ねた。

「ええ、応声虫には苦手な物があるんですよ。昔も、それを飲ませて退治させていたらしいです」

苦手な物とは、何なのだろう。

覚えがなかった。

私が訝^{いぶか}しんでいるのを察^{さつ}してくれたのか、住職が教えてくれた。

「それは、毒ですよ」

だが、それこそ私は食べた記憶はない。

私が口にしたのは、住職に指示されたとおりだ。

ポテトチップやジュース、コンビニのお弁当、ハンバーガーなどのジャンクフードだ。

「ええ、それが毒でしょう」

と、住職は言った。

それを聞いて、私は啞然とした。

私達は日頃、虫が毒だと思つ物を食べているというのだろうか。

帰宅後。

トイレで用を済ませた便器の中に、見慣れないモノが浮かんでいた。

それは、一本の角が生えた白くて長い、応声虫。

キューと弱々しく泣いているが、私は大便と一緒に流したのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9512h/>

原因不明の奇病

2010年10月10日07時55分発行